

岐阜県と連携してコンテナ苗シンポジウムを開催

平成30年8月21日(火曜日)に岐阜県と共催して、「優良ヒノキコンテナ苗の普及に向けたシンポジウム」を開催しました。岐阜県下呂市民会館で開催されたこのシンポジウムには、岐阜・長野・愛知県からコンテナ苗生産者、林業事業者、行政担当者約110名の参加がありました。

中部森林管理局と岐阜県では、平成26年度から優良ヒノキコンテナ苗の普及に向けた実証試験を共同で重ねてきており、毎年、関係者による検討会を実施してきました。

26年度はコンテナ苗の植栽体験、27年度は専用植栽器具の改良をテーマに、28年度は植栽から2年経過したコンテナ苗の発根状況確認や研究報告会、29年度は苗木生産者による試験地視察や生産者と全国のコンテナ苗研究者との意見交換会及び研究報告会を実施してきました。

今年度は、試験研究を重ねて五年目になることから、優良ヒノキコンテナ苗の開発と普及をテーマにシンポジウムを開催しました。

基調講演では、国立研究開発法人森林総合研究所の宇都木研究ディレクターから「全国的なコンテナ苗研究の最新の動向」について、岐阜県森林研究所の茂木主任専門研究員から「低コスト再造林を推進するための岐阜県にあったヒノキ苗の開発」についての講演をしていただきました。



基調講演 (宇都木氏)



基調講演 (茂木氏)

パネルディスカッションでは、「低コスト再造林に求められるヒノキコンテナ苗」と題して、コーディネーターを宇都木氏にお願いし、パネリストには、川戸氏(中部森林管理局森林整備部長)、石田氏(岐阜県林政部森林整備課技術課長補佐)、茂木氏(岐阜県森林研究所主任専門研究員)、牧野氏(有限会社つち創社代表取締役)、山本氏(中津樹苗生産者)を迎えて行いました。



パネルディスカッション



聴き入る参加者のみなさん

「コンテナ苗を作る側、植える側による現場の意見や行政の意見」「今後の再造林に求められるヒノキコンテナ苗について意見交換」が行われ、より優れたヒノキコンテナ苗の開発に向けて各方面の有識者の意見を聞くことができ有意義なシンポジウムとなりました。

お問合せ先

森林技術・支援センター

ダイヤルイン：0576-25-3033(代)

FAX番号：0576-25-2420